

# “スピード”の価値を重視して、 100%自前主義にこだわり抜く！

吉泉産業 株式会社

## 食品スライサーを中心に 食品加工機械で業界トップに

大阪府枚方市の津田サイエンスヒルズ内にある吉泉産業は、あらゆる食品のスライサーを中心に、その前後工程となる食品洗浄やスライス後のトリミングなどに用いる食品機械を製造する企業だ。佐々木社長にお話を伺った。「弊社が他社と異なるのは、部品を外部に発注し、組み立てて販売するセットメーカーが多い食品機械製造業界の中で、100%内製化を目指していることです」内製化100%を目指す理由は明快だ。食品加工機械は元々販売数が少なく、販売台数が年間2〜5台程度の商品もある。そのため適正な価格で部品製造を外注するにはロットが少なすぎるケースが多いのだという。



スライサーなどの商品はすべてオーダーメイド

「よく売れる商品でも、1機種で年間200台程度。しかもほとんどの機械が、どこか一部をカスタマイズしています」先述したように、すべて外注で部品を製造するとコストが高くなってしまいます。だが、中国のような製造コストが安い海外で製造するには、製造ロットが少ない上、顧客の細かい注文に対応できない。「国内で部品を外注し、組み立てて販売すると高コストになってしまう。ならばいっそのこと、全部を自社でやれば安くできるだろうと考えて、内製化を推し進めるようになりました」現在は、社員約60名の内、開発約13名、営業約15名、間接部門約7名、残りが製造スタッフとなっている。「自社製品を開発することは、中小企業にとって重要です。自社の技術や強みを生かせる分野や市場ニーズは必ずあり

ます。ただ、自社にマッチしたニーズを見つけることと、それを製品に落とし込むのが難しいんです。公的機関がその部分をサポートすることは重要だと思いますよ」

## 徹底した自前主義によって、 コスト削減、ノウハウ蓄積を実現

自前主義は先代社長の時から推進されていたという。「内製の方が、付加価値も高められると知っていたんです。例えば、試作する時も、外注に依頼して失敗したら価値はゼロ。でも、内製なら失敗してもノウハウが蓄積され、出費は材料費だけです。結果的にチャレンジしやすくなるんです」当然、内製化を進めるには、人件費や機械設備費などの固定費も高くなる。だが、食品機械製造市場は景気変動リスクがそれほど大きくないため、ある程度の売上があればやっていけるという。「開発→設計→部品加工→組み立て→販売→メンテナンス、この一連の流れをすべて自社で行うのが我々の発想であり、思想です。おかげでメンテナンス対応も好評です。ゼネコンとは全く逆の発想でやっていますし、自前主義を貫くために、工作機械などの設備投資は積極的にやっています」実は、会社のエントランスに設置されているらせん階段も社員が制作したものであるというから驚く。展示会で使うのぼりやホームページ、名刺に至るまで自前主義の信念が貫かれている。「今後は、ソフトウェアの自前主義に取り組みます。これは、産学連携で大阪工業大学の情報工学科と連携が密になった



社員によって作られたエントランスのらせん階段



スライスされた食品が並んで出てくる



津田サイエンスヒルズは京都から車で25分程度

ことで、C言語ができる人に入社してもらうことができたからなんです。まずは魚等を切り身にする機械で使用するソフトの開発を目指します」佐々木社長は、ニッチな市場で自前主義を貫くことが、中小企業として生き残れる要因だと語る。「社員もすべて正社員で採用していますし、ビルも自社ビルです。徹頭徹尾、自前主義にこだわることが重要です」

## 産学連携のきっかけは、 津田サイエンスヒルズへの移転

高速のインターチェンジが近く、京都駅から25分程度という立地もあり、津田サイエンスヒルズへの移転は念願だった。「ちょうど弊社の創業50周年ということもあり、旧工場から近いので以前から移転したかったんですが、当初は研究用地のため無理ということでした。でも、商工会議所の広報誌を見たら準工業地に変更されていたので、申し込んだんです」移転後、『ひらかた地域産業クラスター研究会』の会長を5年ほど務めた。この会では、中小企業の生き残り策を議論する中で、産学連携が重要だというアドバイスをもらい、今では積極的に産学連携に取り組んでいる。「例えば、大阪工業大学・情報工学科の佐

野先生に商品開発をお手伝いいただいたり、大阪電気通信大学の先生と連携したりなど多くの出会いがありました」この会が縁で、野菜を洗う機械の開発では、大手電機メーカーの洗濯機を開発していた方に技術顧問としてサポートしてもらうことができた。「知人の産学連携コーディネーターが紹介してくれたので信頼できました。能力のある技術者にサポートをしてもらえるのは嬉しいことです。商工会議所のサポートも助かります。自前主義の分、違う視点からアドバイスをもらえることは貴重です。中小企業は公的機関のサポートをもっと活用するべきだと思います」

## 海外進出も自前主義で！

現在、吉泉産業の海外売上比率は7〜8%程度だという。タイに販売代理店があるが、代理店契約であるため自前ではないという。「韓国には、縁があって現地の方と折半出資で販売会社である吉泉KOREAを設立しました。こちらは自前主義です」今後は、アメリカへの進出をうかがっており、展示会出展など既にアプローチを始めている。「海外で安く作る気はありません。日本で作ったものを海外で販売したいんで

す。もちろん、アメリカへは自前のスタッフを送り込むつもりです」

## 人材を育み、“スピード”を磨く。 すべては自前主義が鍵になる！

佐々木社長はスピードも重視している。「スピードアップするために、自前主義を掲げているともいえます。設計から組立までワンストップですから、中国製と比較しても断然スピードは速い方です。自前主義のメリットはここにも発揮されているんです」しかし、まだ満足できるスピードではないという。なぜそこまでスピードにこだわるのか。「スピードは価値になるんです。でも、案外そこに目がいていない。中国の方がスピードに目を付け始めました。私たちはあらゆるスピードをもっと上げなくてははいけません」今後の目標をたずねた。「医薬装置製造への進出を目指しています。食品以上にクリーンさが求められる分、付加価値も非常に高い。もう少しすれば核になる人材が出てきて、新しいジャンルへの挑戦を担ってくれると思います」

取材協力/Short Cappuccino 中直照

### 吉泉産業 株式会社

【住 所】大阪府枚方市津田山手2-1-1  
【業 種】食品加工機器の製造・販売  
【代 表 者】代表取締役 佐々木啓益  
【資 本 金】1,000万円  
【従 業 員 数】約60名  
【取 材 日】平成22年8月31日(金)  
【取材対象者】代表取締役 佐々木啓益氏

【沿革】  
昭和30年1月 創業(刃物の熱処理、食品機械の製造販売)  
平成10年1月 ISO9001取得  
平成17年4月 本社・工場を津田サイエンスヒルズに移転  
平成21年1月 韓国に吉泉KOREA設立  
平成21年1月 「大阪ものづくり優良企業賞2008」受賞  
平成21年4月 「2009年元気なモノづくり中小企業300社」選定

代表取締役  
佐々木啓益氏

